

カエルとサンショウウオの楽園・ただみ

只見町のサンショウウオ③

― タダミハコネサンショウウオの発見 ―

只見町の溪流性のサンショウウオ類はハコネサンショウウオ（以下、普通ハコネ）とタダミハコネサンショウウオ（以下、タダミハコネ）の二種が知られています。そのうち最近になって町内で発見され、二〇一四年に新種として発表されたタダミハコネは、現在のところ只見町と新潟県の三条市・魚沼市でしか確認されていません。町内では主に



▲タダミハコネサンショウウオのオス（只見町西部）

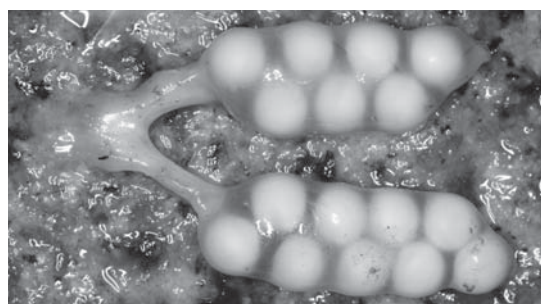
只見川より西側の地域を中心に分布しており、只見町の自然を代表する固有種のひとつです。

新種タダミハコネサンショウウオの発見は、私が京都大学で博士研究員をしていたころに只見町の「変わったハコネサンショウウオ」の生息地を町の方に案内していただいたのがきっかけです。私は以前から全国のハコネサンショウウオの仲間を調査していましたが、タダミハコネとの出会いは特に印象的なものでした。二〇一三年一月に調査を行うために只見町を訪れて案内された場所は、水田の裏から少しだけ山に入ったところの斜面にある湧水でした。そこで大きめの石をめぐったところ、一〇匹以上の成体があるところに潜んで産卵の時を待っていました。その光景に圧倒されてその時は気づかなかったのですが、そこに集まっていた成体はすべて背中が黒っぽく、普通ハコネにしては

変わった体色をしていました。その一部の個体を研究室に持ち帰り、DNAの分析や外部形態観察をおこなったところ、檜枝岐村や町内の他の場所で捕獲した普通ハコネとは遺伝的にも形態的にも異なる新種であることが判明しました。最初の調査では産卵は確認できなかったため、翌月に再訪し追加の調査を行いました。人家の裏山とはいえ二二月末の只見町は大変な積雪で、町民の方に助けていただきながら前回の何倍も時間をかけて現場にたどり着き、奇跡的に卵嚢を確認することができました。ハコネサンショウウオの仲間は地下水脈中で産卵するため卵嚢の発見は困難で、現在のところタダミハコネの卵嚢は町内のその場所以外では発見されていません。

タダミハコネは、外見的には背中に模様がなくほぼ真っ黒いというのが大きな特徴で、体の側面や腹側には銀白色の点が散りばめられています。普通ハコネの背中に黄土色の縦帯があるのとは違い、派手さはありませんがとても渋い美しさがあります。また、生體的にもかなり独特で、上記のように産卵期が雪が降り始める直前の十一月頃であることがわかっています。普通ハコネが雪解けが終わる初夏の六月ころに産卵するのとは対照的です。タダミハコネは近縁種である普通ハコネと分布が重なっており、町内では同じ溪流の中でも両方の種が生息しています。繁殖時期がずれていることが二種の共存を可能にしている一つの要因と思われるのですが、二種の生態に他にどのような違いがあるのか、現在調査を進めています。

タダミハコネの成体は高温と乾燥に弱く、涼しく湿った場所を好みます。夜行性で、昼間は林床の落葉や岩陰のほか、山中の湧水地のまわりに潜み、普段は目にすることは稀です。一方、溪流の中では普通ハコネとともに幼生（上陸前の子供）を簡単に見ることが出来ます。幼生の外見は普通ハコネによく似て、同様に黒い爪を持つており、成体と同じく背中が真っ黒な個体が多いよう



▲タダミハコネサンショウウオの卵嚢。直径5ミリほどの大きな卵が少数入った1対の卵嚢を産みつける（只見町西部）

です。溪流で幼生を見つけたら背中の模様を見比べてみてください。タダミハコネは最近になってその存在が認識され、現在では「只見町の野生動植物を保護する条例」によって保護されるようになりました。しかし人間との関係は今に始まったことではなく、代々続く地域の人々の営みの陰でひっそりと息づいてきました。これからもタダミハコネが只見町の豊かな自然の象徴として人々と共存していけるよう見守っていききたいものです。